

■ 学会賞

日本心臓核医学会における学会賞・若手研究者奨励賞の意義と総評

Commentary on the “Society Award” and “Young Investigator Award” of the Japanese Society of Nuclear Cardiology

一色高明

Takaaki Isshiki, MD, FACC

帝京大学医学部 内科学教室 (現 上尾中央総合病院 心臓血管センター)
Department of Medicine (Cardiology), Teikyo University School of Medicine,
(Now at Cardiovascular Center, Ageo Central General Hospital)

日本心臓核医学会では領域における研究活動の推進と学会の発展を目指し、学会賞（医師部門・技術部門）と若手研究者奨励賞の褒賞制度を運用しています。

学会賞は心臓核医学領域のこれまでの活動に対して贈られるもので、応募された業績を審査することにより、毎年1名を選定して学術集会の期間中に表彰と受賞講演を行っています。第16回学会賞（医師部門）には2名の応募があり、10名の審査委員による厳正な審査を経て名古屋放射線診断クリニックの大島覚氏に授与されました。受賞講演として「拡張型心筋症の心筋障害と核医学イメージング指標との関係についての検討、動脈硬化の分子イメージング、および透析心のPETによる心筋微小循環の評価」と題する講演が行われました。

第4回学会賞（技術部門）への応募は日本医科大学健診医療センターの須田匡也氏の1名のみでしたが、8名の審査委員による討議の結果、その業績は学会賞に値するとの最終評価を得て授与の運びとなりました。表彰ののち「心臓核医学領域における time-of-

flight PETの有用性に関する研究」と題する受賞講演が行われました。

第15回若手研究者奨励賞は、応募演題のなかから大会長が選別した3題を当日行われる審査講演にて選別するもので、10名の委員による厳正な審査の結果、優秀賞に名古屋大学医学部循環器内科の森寛暁氏の「負荷心筋血流SPECT正常な慢性腎臓病患者に対する心電図同期SPECTを用いた位相解析の予後評価」と、日本大学循環器内科の堀祐輔氏の「血行再建術後の心事故発症リスクからみたHigh SYNTAX ScoreとHigh Summed Defect Scoreの関連」が選ばれ、栄えある最優秀賞は愛媛大学放射線科の横山らみ氏による「F-18 FDG PET/CTにおける心サルコイドーシスの心集積：ROC解析を用いた定量評価」に贈られました。なお、審査講演の内容はいずれもレベルが高く、僅差での結果でした。

今回の受賞者および関係者の皆様に敬意を表するとともに、会員の皆様には来年の成果に向けて研鑽されますことを願ってやみません。

